

# すこやか

第23号

平成24年9月  
発行岐阜県総合医療センター  
地域医療連携センター部

## より充実した高度な 救急医療をめざして

岐阜県総合医療センター 副院長  
救命救急センター長 野田 俊之



岐阜県総合医療センターは、本年4月に大学病院に準ずる高度急性期医療を提供する病院であるDPC医療機関Ⅱ群（高診療密度病院群）の指定を受けました。これは、「診療密度」、「医師研修の実施」、「高度な医療技術の実施」、「重症患者に対する診療の実施」からなる4つの実績条件から評価されたものです。「救命救急医療」「心臓血管疾患医療」「こども医療」「がん医療」「女性医療」「周産期医療」を重点医療として、地域の先生方との連携のもと、高度で先進的な医療を提供するよう努めてきた表れであり、今後もこの医療機能を維持できるよう一層努めてまいる所存です。

救命救急医療は当センターの最も力を入れている領域で、“ことわらない医療”をモットーに、全診療科医師の協力の下、各部門の力を結集し、チーム医療で救急患者の受け入れ・治療を行っております。1次から3次まで全ての救急患者を受け入れるER型で、2011年度の実績は、年間救急外来受診患者数は29,354名で、救急車の受け入れは4,709台でした。救急外来には内科、外科、小児科の各担当医師に加え、専任医師1名、初期研修医3

名が初療を担当し、毎日の救急患者レビューカンファレンスを行なうことにより、救急医療の充実をはかっております。また、登録医の先生方の要請に応じて、医師が同乗して救急患者を迎えるに「きずな号」の運用も開始しております。救命センターへの入院患者数は年間1,815名で、急性期を脱した患者は一般病棟へスムーズに転棟していただき、救急患者を常時受け入れられるよう努めています。入院患者は循環器系疾患が約半数（循環器内科541名、脳神経外科382名、心臓血管外科175名）を占めており、急性心筋梗塞へのカテーテル治療、脳卒中へのtPA治療、その他の緊急手術など、急性期対応が常時できる体制を整えております。また、来年度にはハイブリッド手術室を導入し、内科系・外科系が協力し、より複雑な大動脈疾患、末梢血管疾患、弁膜症、不整脈への治療を行なっていく予定です。

今後も、一次・二次医療機関との連携のもと救急医療、高度先進医療をさらに推進していくたく思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

### 骨密度測定装置が新しくなりました

骨粗しょう症の診断で腰椎もしくは股関節を、精度の高いDEXA法（Dual Energy X-ray Absorptiometry）で検査を行う骨密度測定装置が当センターに新たに導入されました。（腰椎、股関節共に正面測定）

DEXA法とは2種類のエネルギーの放射線を検査部位に当て、透過したそれぞれのX線エネルギーの減衰から骨密度（骨塩量）を測定する方法です。

検査の予約など詳細については、岐阜県総合医療センター病診連携室にお尋ねください。



HOLOGIC社製 Discovery Ci

# 連携医の紹介

## 佐々木クリニック

院長 佐々木 栄作

岐阜県総合医療センターの諸先生はじめ、職員の皆様には、御紹介させていただいた患者様が大変お世話になり、心より感謝致しております。基幹病院として誇りある貴院での、前向きで、気概に満ちた対応に、多くの患者様が感謝の気持ちを述べられます。紹介させていただく当院としては、たいへん心強く、且つありがたく思っております。病診連携の意義を理解された患者様は、貴院のバックアップに安堵し、療養されておられます。

当院は、平成10年4月各務原市那加に開院しました。地域医療に従事させて頂き、高齢の患者様の経年的機能低下を目の当たりにし、マントトレーニングによる機能回復訓練を主目的としたデイサービスセンターを平成17年開設しました。このような高齢者に対するトレーニングは、老年症候群の予防に有効であるだけではなく、バイタリティを増加し、活動的や積極的になる等の行動変容を促す効果があることを実感し



ています。

また、岐阜県下では初の医療法第42条の規定の有酸素運動施設を開設しました。というのも、種々の生活習慣病の方々に運動の指導を行っても、運動嫌いの方が多く、自ら実際に取り組まれることは難しいと痛感したからです。現在、2名の健康運動指導士を中心に、有酸素運動のみならず、各種マントトレーニング、ピラティスヨガ、ポールウォーキングなど通じて、運動療法を行っています。継続率は高く、やはり、人のつながりが運動療法の継続に肝要と実感しております。検査

データの改善のほか、副次的に腰痛や、肩こりなどにも効果があります。各種整形疾患、心肺疾患のリハビリにも、負荷を定量的にコントロールできるため大変に有用です。

かつて学んだ“*To cure sometimes, to relieve often, to comfort always.*”を忘れることなく、病に悩まる患者様の幸福に少しでも寄与できるよう、邁進するつもりです。特にcureについては、貴院にお世話になるばかりですが、今後とも何卒よろしくお願ひいたします。



## 診療科の紹介

### 総合診療科

近年の医療は高度化し、臨床医学における医師の専門化、細分化には著しいものがございます。特に総合病院におきましてはその傾向は強く、それぞれ臓器別に専門科が標榜され、優れた技術や知識の修得をされた医師が診療を担当されております。しかし、現実に病院を訪れる患者さんの多くは複数の疾患を抱えていますから、各分野の専門医師は連携して適切な診断や治療を施さなくてはなりません。そこで、初診時診断として患者さんの訴えに対応でき、的確に診断を行う場所の存在が必要となります。

現在、当科では患者さん御自身がどこの部分がわるいのか?何処の科にかかればよいのか?と、受診先を決められな



総合診療科部長 宇野 嘉弘

い方を主に診察させて頂いております。また、地域医療を担って居られる各科診療所、クリニックの先生方からの御紹介患者の中でも、担当科がまだ決定できない患者さんや、循環器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝性疾患、自己免疫性疾患、脳神経疾患、呼吸器疾患、腎尿路系疾患、等々を複雑に合併している患者さんの診断・治療に関わり、本院での初診患者の玄関番の役割を実践していきたく存じております。

私こと、2年前より総合診療科外来を週2日担当させて頂いておりましたが、本年4月より岐阜大学から岐阜県総合医療センターに赴任させて頂き、今まで外来のみであった総合診療科を、病棟入院治療も行うように御指示を頂きました。北田善彦医員1名との2人所帯ですが、精進して参る所存でございます。また飯田真美内科部長にも外来を御協力頂いて、より幅の広い外来診療に携われればと存じております。

当科の主な来院時の訴えと致しましては、発熱、体重減少・全身衰弱、皮疹・関節痛等の多科にまたがる症状や、不眠・不安・焦躁感等の多彩な愁訴の患者さんが多く来られております。また、特殊外来として水曜日には膠原病関連を対象としたリウマチ・膠原病外来も開設させて頂いております。

当院を受診される患者さんで受診先に迷われる方が万一おられましたら当科を受診頂けましたれば幸いに存じます。どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。

### 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・睡眠時無呼吸外来

耳鼻咽喉科は中耳炎や副鼻腔炎の治療を行うだけでなく、頭頸部悪性腫瘍の治療も行っております。最近は悪性腫瘍例の治療が年間約60例と増えてきたため、本年7月より頭頸部外科も標榜するようになりました。もちろん慢性中耳炎や副鼻腔炎の手術も今までどおり行っております。手術用内視鏡や神経刺激器、ナビゲーションシステムを併用しより安全な手術をおこなうようにこころがけています。昨年1年間の耳鼻咽喉科の総手術件数は300件程度(全身麻酔は約半数)です。

また睡眠時無呼吸外来を併設しております。睡眠時無呼吸症候群は高血圧、糖尿病、肥満、夜間頻尿等多彩な症状がみとめられることがあり、循環器内科や内分泌内科、糖尿病内科、神経内科等多くの診療科を受診することが特徴の疾患单位ですが、耳鼻咽喉科は近隣の病診連携の諸先生方や他科の先生から紹介していただき、総合的に診断をしております。口蓋扁桃肥大や副鼻腔炎が睡眠時無呼吸症候群の原因であれば、手術的治療を行うことはもちろんですが、ほとんどの症例はN-CPAP(持続陽圧

耳鼻咽喉科部長・  
睡眠時無呼吸センター長 柳田 正巳

呼吸療法)を開始しています。紹介していただいた患者さんには、紹介先の診療所で引き続き治療を継続していただいているります。睡眠時無呼吸症候群の治療は高血圧や糖尿病治療の補助的治療として充分に役に立つ治療です。疑わしい症例がありましたら紹介してください。手術日の水曜日以外は毎日受け付けております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



# 地域医療連携センター部からのお知らせ

## FAXによる入院患者さんの服薬内容(持参薬)などの問い合わせについて

岐阜県総合医療センター 薬剤センター部長 遠藤秀治

薬薬連携をご存知でしょうか…? 薬薬連携は、薬剤師間(開局薬剤師と病院薬剤師)での患者さんの薬物療法情報をFAXや「お薬手帳」による引き継ぎのことを言います。岐阜県内では、当院を中心に平成20年度から行われております。医師との間でも主に「お薬手帳」を用いて連携が行われており、これらの連携は重複投与の防止などに有効です。

今回、当院では薬剤師を各病棟に配置したことから、紹介患者さんについて、入院時の薬物療法の確認を、患者さんの持参薬を調べる方法以外に、より正確性を高めるために、連携により、それまで処方されていた医師(かかりつけ医)、または、院外処方をされている場合はそれを調剤した薬局(かかりつけ薬局)に直接問い合わせをすることとしました。ご面倒をおかけしますが主旨をご理解いただき、ご協力を願いいたします。この運用の概略は次の通りです。

### <運用の概略>

- ①入院予定の患者さんが外来診察を受け入院決定時に、患者さんの同意取得後、関係医療機関に情報提供をFAXで依頼します。知りたい内容は、使用中の薬剤や特記事項(副作用歴、アレルギー歴等)です。
- ②お送り頂いた情報(FAX)は、患者さんが入院されたら病棟薬剤師経由で病棟スタッフに伝達され、入院中の治療に活用されます。患者さんが入院された時、病棟薬剤師から答礼用のFAXを情報提供していただいた医療施設にします。
- ③退院時には、入院中の薬物療法の経過などを病棟薬剤師が患者さんにお渡しします。退院後の初回診察時に患者さんにご確認いただくと入院中の薬物療法の経過がお判りいただけます。



### 岐阜県総合医療センター



外来薬剤師

病棟薬剤師

入院決定時、患者同意後  
FAXで情報提供依頼

情報提供  
服薬情報、アレルギーなど

### 関係医療機関



かかりつけ医



かかりつけ薬局

- 患者さんから「かかりつけ医」、「かかりつけ薬局」を聴取する。
- 患者さんの同意後、関係医療機関に薬歴照会の依頼をFAXで行う。

### 編 集 後 記

岐阜県総合医療センター地域医療連携センター部新聞第23号をお届けします。

病診連携に向けて、先生方に少しでもお役に立てる紙面を目指しています。

ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしています。



地方独立行政法人  
岐阜県総合医療センター

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号

地域医療連携センター部直通 TEL (058) 249-0017

FAX (058) 248-9334

発行／岐阜県総合医療センター地域医療連携センター部